

パラグアイ経済トピックス (2023年11月)

1 フィッチ・レーティングスがパラグアイのカントリー・シーリングを引上げ

(1) 11月2日、フィッチ・レーティングスはパラグアイのカントリー・シーリングをBB+からBBB-に引き上げたと発表した。これは、パラグアイ企業が投資適格債を発行できることを意味する。また同社は、パラグアイのソブリン債の格付けを、安定的な見通しのBB+で維持した。

(2) フィッチ・レーティングスが発表した報告書は、ペニャ新政権が、経済における民間部門の役割を増やし、正規雇用を増やすことを目的に、エコでビジネス・フレンドリーなアジェンダを推進しており、カーボンクレジットに関する法律など、いくつかの分野ですでに進展があったことを強調している。また、パラグアイ政府は、国際通貨基金(IMF)と合意した政策調整インストルメント(PCI)における改革(年金規制機関の創設や公的部門の年金制度の改革など)も継続する計画である。

(3) フィッチ・レーティングスは、2022年に同国を襲った深刻な干ばつの後、主に農業と水力発電部門の回復により、今年は約5.2%の経済成長が得られると予想している。スタンダード&プアーズ、フィッチ・レーティングス、ムーディーズの3つの格付け機関は、近年地域各国がリスク格付けと見通しを悪化させている複雑な地域情勢の中、パラグアイの信用格付けを維持している。

2 パラグアイ、米国への牛肉輸出を再開

(1) 11月9日、ペニャ大統領は、パラグアイ産牛肉の対米輸出が再開されることとなる旨発表した。米国農務省によるこの決定は25年ぶりに下されたもので、ペニャ大統領は国民に向けたメッセージの中で、「本11月9日、25年間にわたり行われていなかったパラグアイ産牛肉の米国への輸出再開を発表できることを大変嬉しく思う。」と述べた。これにより、パラグアイは米国に牛肉を輸出する世界18カ国のひとつとなる。

(2) ヒメネス商工大臣は、パラグアイ産牛肉の対米国輸出の再開により、最初の数年間は年間約6,000万米ドルの収入が見込まれると述べた。同大臣は、パラグアイが「その他の国」の輸出枠カテゴリーに入るとし、アルゼンチン、ウルグアイ、そして主な競争相手であるブラジルなど、地域の他の国々と約20,000トンの割当てを共有することになると述べた。

(3) また同大臣は、輸出される部位は市場によって決定されると述べつつ、一般的には、最初の出荷は骨なしのプレミアムカットであり、米国輸入業者との交渉で民間部門が重視するのもこの点であると述べた。

3 サウジアラビアがパラグアイ産牛肉輸入に向けた調査を実施

(1) 11月10日、国立家畜品質・衛生機構 (SENACSA) は、サウジアラビアの食品医薬品衛生庁が、サウジアラビアへの牛肉輸出に向けたパラグアイの食肉加工工場に対する調査のため、12月4日から15日までパラグアイに技術者を派遣すると発表した。

(2) SENACSA のプレスリリースによると、当該検査は、サウジアラビアの技術者と SENACSA 関係者との会合から始まり、その後中央研究所の視察が行われ、家畜衛生に関する業務についてより掘り下げた調査が行われるとのこと。加えて今次調査では、肉牛の農場、国境の検査所、全国にある10の輸出用食肉加工工場への訪問等が行われる。

4 パラグアイ産牛肉の輸出、日本や韓国などの市場も目指す

(1) 食肉産業関係者は、米国市場の開放後、パラグアイ産牛肉の競争力を高めるため、より多くの国への進出を続けることを目指しているとしている。

(2) 新たな市場への参入に向け、現在、サウジアラビア、日本、韓国との手続きが進んでおり、当該市場には、冷凍牛肉の輸出も視野に入れられている。

(3) カナダもまた米国への輸出再開に向けた動きを注意深く観察しており、輸出開始のためには、衛生証明書の発行のみが待たれる状況となっている。

(4) SENACSA 関係者は10月に韓国を訪れており、牛肉の中でも特に前足の部位の輸出許可を得ることを目指している。韓国からは、2024年の調査団の訪問の確定が待たれる状況となっている。

(5) パラグアイの食肉業界は、各国市場の開放が、パラグアイ・中国間の外交関係不在による中国へのパラグアイ産牛肉の輸出の欠如を補うこととなると信じている。

(6) なお、中国はブラジルやウルグアイ産牛肉1トン当たり平均5,000米ドル強を支払っている一方、パラグアイは2023年上半期に1トン当たり4,820米ドルで輸出している。